

第3回足立区基本構想審議会会議録

日 時 平成27年8月31日（月曜日） 午後3時00分から5時00分

場 所 足立区役所南館13階大会議室B

出席者 足立区基本構想審議会委員（36名）

牛山久仁彦会長、田中充副会長、石阪督規委員、村上祐介委員、田中隆一委員、有馬康二委員、足立義夫委員、須藤秀明委員、乾雅榮委員、吉田修一委員、小久保兼保委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、田中忠穂委員、近藤勝委員、石橋穠治委員、大塚和夫委員、北川千恵子委員、志自岐亜都子委員、白根澤正士委員、長谷川浩一委員、早木美恵委員、益留有紀委員、吉岡茂委員、渡辺ひであき委員、馬場信男委員、ただ太郎委員、たがた直昭委員、長井まさのり委員、岡安たかし委員、くぼた美幸委員、鈴木けんいち委員、おぐら修平委員、石川義夫委員

事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

- 議題等
- 1 第2回基本構想審議会における質問等への回答
 - 2 あだち区民サロン及び中・高生ワークショップ（報告）
 - 3 意見交換（課題の整理）
 - 4 専門部会への調査付託
 - 5 事務連絡
 - 6 中学生代表による「私たちの考える足立区の将来像」提出

資 料 【資料12】第2回基本構想審議会における質問等への回答

【資料13】「区民あだちサロン（座談会）」及び「中高生ワークショップ」
将来像

【資料14】第1回・2回足立区基本構想審議会意見一覧

【資料15】専門部会討議概要 及び 基本構想における将来像と基本理念

【資料16】足立区基本構想審議会専門部会別委員名簿

1. 第2回基本構想審議会における質問等への回答

基本構想担当課長：お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまより第3回足立区基本構想審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。私は事務局の基本構想担当課長、山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この会場ではマイクが各席にございませんので、ご発言の際は恐れ入りますが挙手をお願いします。担当者がマイクをお持ちしましたら、これまで同様会議記録に必要なため、お名前をおっしゃってからご発言ください。ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、本日は牛山会長が急用のため4時頃到着予定ということですので、それまでは田中副会長に進行をお願いします。

田中副会長：副会長の田中でございます。どうぞよろしくお願い致します。円滑で活発な進行に努めたいと思います。まず配付資料の確認をお願いいたします。

基本構想担当課長：それでは事務局から資料の確認をさせていただきます。まずは本日の次第です。次に資料12、若干厚みのあるものですが、第2回基本構想審議会における質問等への回答です。なお、資料番号はこれまでの審議会から通し番号にしております。続きまして番号が一つ飛びますが資料14。A3版の第2回足立区基本構想審議会意見一覧です。次に資料15、専門部会討議概要及び基本構想における将来像と基本理念です。次に資料16、次回以降に開催する専門部会別にした委員名簿です。その裏面には専門部会別の開催日時と場所について記載があります。次に参考資料として、前回の第1回審議会の会議記録で28ページになっております。それから事前にお送りして本日ご持参をお願いした資料13、A3の区民あだちサロン及び中学生・高校生ワークショップ、私たちの考える足立区の将来像も含めまして資料に不足はございませんでしょうか。資料13をお忘れでしたらご用意しておりますがいかがでしょうか。以上です。田中副会長、よろしくお願いいたします。

田中副会長：よろしいでしょうか。では審議に入ります。議題の1、これは前回、第2回審議会における質問等への回答となります。これは資料12が中心となると思いますが、事務局からご説明をお願いします。

基本構想担当課長：それでは資料12。厚めのものです。第2回基本構想審議会における質問等への回答をご覧ください。前回の審議会でもいただきました質問等に対する回答や資料の掲出についてご説明します。

最初に1番、検討素材における取り組みと成果の、区内経済の活性化に関してです。ご質問では、区内の工場などが減少している一方で、区が活性化を図っている事業の成果を示すデータはあるのかということでした。表は検討素材の取り組みと成果に記載の3事業における実績数字です。最初のインキュベーションマネージャーによる創業間もない時期の不安や、経営ノウハウ等の相談について活用の増加を図りまし

た。二つ目の創業支援施設は、オフィスを安く借りられて支援を受けられるもので23室あります。利用企業は増えており、中には東証マザーズに上場するまで成長した企業もあります。創業支援施設のパフレットは、このページを1枚おめくりいただいた別紙1となります。「創業するなら足立区で」。こちらが創業支援施設の三つのうちはばたきとかがやき、合計23室の状況です。この他、東京電機大学が運営するかけはしというものとも連携しております。

先ほどの表にお戻りください。三つ目の足立ブランドの認定も増やしております。そして表の下の方の菱形の部分。平成24年度まで減少してきた区内の製造品出荷額等と、規模別工場数の25年度数値が出ましたので記載いたしました。結果としては24年度よりも更に減少しています。ただし、26年度以降は数字がないので言い切れませんが、状況が変わってきている可能性もございます。

続きましてその下の2番。他の自治体の議員による視察があった取組みという部分です。これは足立区に視察に来るのは、先進事例を参考にしようというもののなので、区の成果として示していただきたいということでした。平成26年度はご覧のテーマと件数になっております。

裏面をごらんください。3番目の小中学校の学級数推移です。検討素材では学級数は35名学級の増によりほぼ同水準の推移となっていると説明しているものの、数値までは示しておりませんでした。表は小中学校別学級数の10年間の推移です。太枠が35人学級の導入があった部分です。23年度から小学校1年生に、24年度から小学校2年生に、25年度から中学校1年生に導入しました。しかし実態は既に1学級の平均人数が30人台前半でしたので、35人学級導入によって学級数が大きく増加するまでには至りませんでした。むしろそれまで減少傾向だったものが、現在はほぼ横ばいになっているという状況です。

続きまして4番目は、別紙2というタグが付いていますが、こちらをごらんください。世論調査以外の声や、各部署に届いた声があれば活用出来るということでしたので、平成25年度に区民の声として受け付けたものだけで申し訳ありません。これらをまとめた冊子を提出いたします。その7ページをお開きください。約2,000弱の区民の声を分類したものを、多い順に並べました。1位の職員の接客は毎年のように1位です。以下、施策に関するものが続いております。

続きまして5番目は別紙3をご覧ください。世論調査の聴取方法として、質問項目についてご質問がありましたので、こちらは平成26年度の実施結果を提出いたします。その5ページをお開きください。郵送調査の方法や回答した標本数などについての記載です。そしてその後の250ページ以降、ちょっと抜粋になっておりますが、250ページ以降がそれぞれの質問項目と回答結果になっております。

続きまして別紙4をごらんください。現状の課題や今までの成果を議論する上で、区の主要事業である重点プロジェクトにおける区民評価結果が活用出来るということで提出いたします。実は検討素材にある取組みと成果もこちらから多く紹介しております。恐れ入りますが、この別紙4の85ページをお開きください。一番上の左側に施策、くらしとありますように、次回からの専門部会、他のページでは子ども・

くらしなどと同じ分類となっております。ちなみにこの８５ページ、８６ページが、先ほどご説明しました創業支援施設やインキュベーションマネージャー相談等の関係となっておりますので、ご参考にしていただきたいと思います。

以上、これら重要な資料の提出が今頃となってしまいまして申し訳ありませんでしたが、ぜひご活用いただきたいと思います。

田中副会長：さっと見ていただきまして、質問等ございましたらお出しいただきたいと思います。

北川委員：世論調査の取り方とかサンプリングについては、前回ご説明をいただいているので大体理解はしたのですが、ただこの方法で意見を聞きにくい、例えば障がい者の方々ですとか、そういう方々の意見はどのように集めていらっしゃるのかをお伺い出来ればと思います。要するに、この手法で意見を聴取しにくい方々の意見をどのようにすくい上げていくかという今までの方針をお伺い出来ればと思います。

田中副会長：今の関係でご質問はございませんか。それでは今の北川委員のご質問について回答をお願いします。

政策経営部長：例えば、障がい者の方々につきましては、さまざまな例えば視覚障害とか肢体障害とか、障がい者団体の皆様がいらっしゃいますので、その団体の皆様とは、例えば障がい福祉課や障がいセンター、各所管が意見やご要望を承る機会がありますので、そういう中でご意見を伺ったりしています。また、障がい者団体に入っていない方に関しては、実際にいろいろいただいています。先ほどご紹介した区民の声ということで、お電話とかメールとかお手紙等でいただくという形でさまざまな方からご意見をいただいています。

田中副会長：他の分野でかまいませんが、いかがでしょうか。

鈴木委員：一つは今の世論調査なのですが、この母数３，０００ということで、対象が２０歳以上となっていると思います。実際に今の方の意見は、こういう世論調査ということではやっているのかどうかというのが一つ。もう一つは、最初の説明で産業関連の直近データということで、出荷額が減ってはいるが、最近については何とか増えているような印象を感じる説明があったのですが、それについてお聞かせください。

田中副会長：他にいかがでしょうか。それでは今、鈴木委員からご質問が２点ございましたがお願いします。

政策経営部長：まず二十歳以下の方を対象にした世論調査のようなものを行っているのかということですが、そのような手法、アンケート調査で意見を聞くということは

実施しておりません。ただ、今日ご案内する、特に今回足立の将来像を描こうということに関しては、中高生の方々にワークショップをやっていただいて、足立の今の課題・将来像についてご意見をいただいたものを後ほどご報告させていただきます。

基本構想担当課長：２点目の産業関係について申し上げます。先ほど２５年度と、２年前のデータが国の調査で公表されていますが、直近のものがございません。そのまま下がっていると言うよりは、最近の経済状況を受けまして、産業経済部などとも話をして、上がるとまでは言い切れませんが、若干下がる傾向が止まっている可能性もあり得るということで、２６年度、２７年度あたりの数字が示せないで申し訳ないのですが、そのままどんどん落ちているということではないということで申し上げたいと思いました。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

近藤委員：この産業関連の直近データですが、規模別工場数ということで載っておりますが、商工会議所が把握している企業数は、事業所ですが、工場、個人の事業すべて含めて、区内で約２万５，０００事業所あると把握しています。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

それでは内容に厚いものがありますのでお目通しをいただいて、もし必要があれば最後に、あるいは別途事務局の方に問い合わせをしていただければと思います。また、総合討論・意見交換の機会がありますので、その中で今日お出しいただいた資料も含めて意見を出していただければと思います。

次の議題に移りたいと思いますが、その前に須藤委員がお見えになりました。前回・前々回ご欠席でしたので、簡単に自己紹介をお願いします。

須藤委員：ただいまご紹介をいただきました足立区医師会の会長を務めております須藤秀明と申します。今日も急遽往診が１件入って遅くなりまして、申し訳ありませんでした。この足立区の今後を考える基本構想ということですので、医師会としても最善を尽くしていろいろ意見を述べさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

２．あだち区民サロン及び中高生ワークショップ報告

田中副会長：それでは議題を進めてまいります。議題２、これは資料１３になりますが、今お話が出ました中高生ワークショップや区民サロンからのまとめとなります。これも事務局から内容のご紹介をお願いいたします。

基本構想担当課長：これにつきましては資料１３。Ａ３のあだち区民サロン及び中学生・高校生ワークショップ、私たちの考える足立区の将来像をご覧ください。７月に実施したさまざまな区民の皆さんによるグループ討議により出された区の将来像等の意見をまとめたものです。同じ区民による意見として、今後の審議の題材としてご活用いただきたいと存じます。なお、後ほど区民代表として中学生２名の方が同じものを手渡しで提出にいらっしゃいますが、授業の関係等で遅くなりますので先に審議に加えさせてください。

資料の１ページ目。Ａ４の方は実施概要でして、（１）の対象者については、大人の方は無作為抽出により呼び掛けをして、申し込みがあった方です。中高生の方は学校から２年生を１人ずつ推薦していただきました。そして（２）の表の通り、ライフステージ別に六つのグループで実施しました。二十歳の方、若い単身世帯の方、４０歳の方、子育て世帯の方、６０歳から８０歳の方、そして中学生・高校生の方に集まっていたいただき、それぞれ５～６人ずつの班で討議しました。討議の時間はそれぞれ３時間程度です。実際の参加者数は合計すると１５８名となります。（３）のグループワークについては、大人の方は区の良いところ、そして足りないところから検討を始め、将来像と課題の解決方法を導き出しました。中高生の方は、将来の夢を叶える上で区の良いところ、足りないところ、そして必要となる人材や力は何かなどを検討し、将来像を導き出しました。討議後は各班から発表もしていただきました。その討議や発表でのシートがありますが、その一部を壁に貼りだしてございます。大きめの紙でいろいろな付箋が貼ってあるものが実際に討議で作ったもののごく一部でございます。

資料２ページ目以降は、グループ別に出された意見、つまり討議で作成したシートの中身を分野別に分類したものです。それぞれに色の付いた印、例えば子どもの「子」や「く」などがありますが、これは専門部会別の関連を頭文字で表示したものです。なお、今ご覧の２ページ目は、数ある意見のうち発表で強調されたものなどを中心に要約したものです。区の良いところや足りないところは、年代によって本当にさまざまなものとなりました。一方で一番下の太枠の将来像については、参加者が真剣に足立区を良くしていこうと話し合っていた結果ですが、交流や支え合い、安心等の要素を含むある程度共通的なものになったという印象です。

続きまして３ページから１２ページまでは、要約する前の全意見を細かく分類したものになります。まず３ページ、４ページは区の良いところです。めくっていただいて、次の５ページ、６ページは区の足りないところです。次の７ページ、８ページは将来像についてです。７ページの大人の方のグループは、各班から１～２個のフレーズにまとめていただきましたが、８ページの中高生の方は一人ひとりに考えていただきました。さまざまなフレーズが示されていますので、審議会における将来像のまとめ等に活用していただければと思います。なお次の９ページでは、ただいまの７ページ、８ページの将来像をキーワードに分解の上、分類しています。１０ページから最後の１２ページは、将来像の実現のために取り組むことや、求められる人材や力について分類してあります。区だけではなく、協働の観点から区民の方が出来ることも考

えていただいたところ、数多くのご提案をいただきました。なお、映像で討議や発表の実施状況をごく一部ですがご紹介します。スクリーンをご覧ください。約3分間です。

映っていますのは40歳のグループです。進行役がみんなの発言を引き出し、区職員も同席して疑問に答えるなど円滑に進めました。無作為抽出にした目的は、これまで声を届けてこなかった方や関心の低い方でも参画のきっかけとしてもらうことです。参加後のアンケートでも、初めて区政のことで話したり理解をして有意義だったという感想が多くありました。

こちらは子育て世帯のグループです。参加者は最後まで責任を持って参画していただき、より良い足立区に向けて真剣に考えていただきました。また、同じ年代や同じ環境にある方が一堂に会して、日頃感じる悩みや希望なども含めて、共感しながら語り合うことで、そのニーズやアイディア等を浮かび上がらせることが出来たと思います。これらのことはどのグループでも共通でした。参加後のアンケートでは、日頃考えていることの情報交換が出来たり、足立区のことを知る機会にもなったなどがありました。中には、一生懸命メモを取っている方もいらっしゃいました。

こちらは子育て世帯における班ごとの発表です。当然全体的には子育てに関する意見が多いですが、将来に向けては多世代での交流が深まるといいといった意見も意外と多く、これについても他のグループと共通に思いました。今の映像にはないグループなのですが、単身世帯グループの40歳に近い方は、結婚のことよりもむしろ老後のことが心配だとおっしゃっていたのが、最近の特徴として印象的だったところでありました。

今映っているのは、将来を担っていく中学生・高校生48人による討議です。進行役がみんなの発言を引き出すことは同じですが、区職員の代わりとして、地域や学校の健全育成に取り組み、実情に詳しい青少年委員の方が各班に助言者として同席していただきました。その青少年委員の方の感想では、生徒さんが世の中の良い点、悪い点をよく見ているので、大人が頑張らなければいけないと思えたとか、子どもがしっかり成長していけるようにすることで区の財産となっていくというお話がありました。生徒さんの感想では、大まかなまちづくりの将来よりも、もっと具体的なテーマについて議論したかったとか、大人の方ともワークショップがしてみたいといった頼もしいものもありました。

こちらは中学生の班ごとの発表です。他の班も含めてあいさつ・コミュニケーション・活気・マナー・居場所などのキーワードがよく聞かれました。後ほどお越しになる生徒さんのお一人がこの中にいらっしゃいます。なお、生徒さんによる手渡しの後、全員での写真撮影については追ってご案内させていただきます。発表の最後は、1人ずつ紙に書いた将来像を述べていただきました。右から2番目の女子の生徒さんがお越しになる予定です。

田中副会長：今、事務局から資料13と映像に基づいて、区民の皆さんに集まっていたく、それから中学生・高校生ワークショップということで、この区の将来像、自

分たちの将来像について発表していただきました。内容についていかがでしょうか。ご意見・ご質問がありましたらお出しいただきたいと思います。

おぐら委員：今回こうした資料でそれぞれの意見についても調査の専門部会の付託ということでそれぞれの項目が付けられています。非常にいろいろな世代の方々からの意見は参考になるものがたくさんありまして、これを今後の審議、基本構想に盛り込んでいく上での進め方について、どのような形でこれをそれぞれの部会に落とすのか、全体の中に落とし込んで議論を集約していくのか。これをより有効に活用していく、これから議論を深めていくための進め方のイメージをお願いします。

田中副会長：委員ご自身にご意見はございますか。

おぐら委員：まずはやはりこれをそれぞれの部会に落とし込んでいって、このアンケートの中身についてそれぞれの部会で議論をし、おそらく次の項目になってくると思うのですが、そしてこの議論を深めていき、その声をしっかりとまた全体会の中にフィードバックしてやっていくのが、おそらくスムーズな進め方なのではないかというイメージを描いているのですが。

田中副会長：資料１３で出された多様な意見を、各部会でどのような形で審議し、またまとめていくのか。何かお考えがありますでしょうか。

基本構想担当課長：今委員がおっしゃったことはごもっともなご意見で、進めていただければと思います。そのためにまちづくりのマークなど付けさせていただきました。それにとらわれず、他のものもご覧いただければと思います。それから、特に７ページ、８ページはスローガンといったものになりますが、基本構想の理念といったものが出来上がっていくのか、これにとらわれることはございませんが、そういったものということで参考にさせていただければと思います。

おぐら委員：あとは意見なのですが、私は議会の中で普段地域、行政に関わることがないようないろいろな方々から意見を集約するための手法として、無作為抽出での政策テーマに合わせた討議会と言うか、意見交換会を実施してはどうかと提案してきたことがありました。今回、まさにこうした形を、しかも細かくそれぞれ世代別、またカテゴリー別に分けて実施されたというのは、これから我々以外の状況を知るためにも非常にいい資料だと思いました。今回これは出来上がったのですが、今後またこうしたいろいろな区政を進めていく上で、今まで参画したことがなかった方たちのきっかけにもなりますし、いろいろな意見を集約するという意味でも、今後これからも無作為抽出手法も活用しながら、いろいろな意見を反映していく仕組みづくりというのを、これに限らずいろいろな分野でぜひ生かしていただきたいと思います。

北川委員：今、お話になったことについての関連なのですが、最終的にこの会議体の成果物として期待されるものは、初回にいただいた足立区基本構想に出ているレベルのものなのか、前回の会議では具体的な施策はここで討論することではないというご意見をいただいた気がしたのですが、どの程度のものをご用意する心づもりであれば良いのでしょうか。

早木委員：細かいことで申し訳ないのですが、分からなかったのでお願いします。区分のところで、20歳、40歳となっていますが、これは20代、40代という意味なのでしょうか。ここに50歳というのはないですが、50代の方は入っていないのでしょうか。あとは20歳というのは単身者の世帯と、40歳というのは子育て世帯と重複するのでしょうか。

長谷川委員：先ほどの北川委員のご質問とも絡みますが、ここには非常に貴重な将来像の意見等、10年、30年ぐらいの将来像になりますと、非常に絆とか共生とか心の豊かさとか、非常に抽象的な定性的な目標が羅列されてきていると思います。これを基本構想に落とし込むというところで、先ほどのグループ分けだけではとても落とし込みにくいのではないかと思います。これは事務局として具体的な手法論で、例えば世の中にはKJ法とかいろいろな手法があると思うのですが、そういったものできちんと落とし込んで、定性的なものを具体的な基本構想にしていくというお考えはあるのでしょうか。

田中副会長：今、3人の方からご質問・ご意見がありましたので、ひとまず事務局からお答えをいただきたいと思います。

基本構想担当課長：1点目ですが、最終的には現在の基本構想と同じようなもので、これに代わるものを作っていただくのですが、今後審議を重ねていく上で練っていければと思います。施策の話がございましたが、そういったこともしていきませんと、最終的な区の方向性等も見えてこない状況がありますので、区の成果と取り組み、また問題・課題、そういったところを十分に議論をしていただいて、ゆくゆくは基本構想になっていけばいいと思います。方向性を定めていっていただければいいと思います。これはあくまでもイメージですが、資料13で言えば、7ページ、8ページのようなものがいろいろなものを包含していく方向性で、そういったものの形のイメージであると考えております。

2点目のグループについてなのですが、確かに二十歳、40歳、ピンポイントで、人生の節目、選択を迫られる節目というところで置いてみました。50歳ということでは確かにその隙間に入ってしまうますが、これは子育て世帯は0歳から小学生の親としていますので、もしかしたらいらっしゃるかもしれません。無作為抽出の中にもあったと思いますが、実際にお越しになった方が50歳という方もいらっしゃったかもしれません。すべてからお聞きするというよりは、そういった節目節目で同じ年代

の方を集めまして、共感しながら答えを浮かび上がらせるという手法を採りましたので、こういった格好になってしまったのでご了解いただきたいと思います。

3点目につきましては、事務局と審議会の委員の皆様のご協力の上で今後練っていききたいと思います。KJ法等の手法も検討していきたいと思います。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

鈴木委員：一つはこのサロンとワークショップで、星印が付いているのはシール投票で票数の多かったもの、ただし中高生などはシールではやっていないというのですが、この大人の部分で星が付いていないものは、要するに一つでも意見が出たら記載されているということなのでしょうか。

もう一つ、先ほど事務局の説明で、中学生だったか高校生だったか、大人とディスカッションをしたいという意見があったのですが、まさにそういうふうに私も思ったりするのですが、そういう機会というのはこの基本構想の審議会の中では予定されているのでしょうか。

もう一つ、例えばこのサロンとワークショップの2ページのところで、子育て世帯で足立区の足りないところということで、待機児童の問題だとか、保育料が高いとか、いじめがあるとか非常にシビアな問題が出ているわけです。これそのものが基本構想に書き込むということは出来ないのかもしれませんが、こういうことを一つイメージして、これの解決を図るということも、この基本構想審議会のテーマと言うか、課題と言うか、目標と言うか、目的地と考えていいのでしょうか。

基本構想担当課長：最初にシールなのですが、流れのご説明になりますが、発表の時に出てきたものがこの2ページの要約部分なのですが、最後にその班以外の方も含めて、私も同感というシールを、入り口側に赤い丸いシールが貼ってあるのがその実物ですが、シールを1人3枚貼っていただいて、それが数はちょっと一つ二つではなく、たくさん集中的に付いているようなところに、この赤い星を付けさせていただきます。

2点目の大人とということなのですが、基本構想審議会に限りましては、ひとまず7月にやったもので終わりということで、今後答申が出て、その後のいろいろなシンポジウムとかパブコメとかありますが、そのところは未定ですので、やるかどうかは分かりませんがやらないとも言えない状況です。

3点目のテーマですが、こういった例えばいじめとかそういったことを解決していくにはといった話をしながら、区の大きな方向性、今のところ言えばお子さんのこととか、教育のこととかといった大きな方向性というものをまとめていただければと思います。

田中副会長：他にいかがでしょうか。後ほど中学生がお二人見えられて、審議会の会長に意見書を受け渡す催しがあるということですので、その段階で何かあるかもしれ

ませんが、ひとまず私の理解では、この資料１３はこういった形で区民のさまざまな世代、あるいは中学生・高校生などの意見も参考にしながら、区の将来像やあるいは施策のあり方について提言・答申をまとめるにあたって参考にしていこうという趣旨かと思います。十分こうしたご意見も参考になるとと思います。

３．意見交換（課題の整理）

田中副会長：それでは先に進めさせていただきます。四つの課題、四つの部会に分かれてこの後審議を進めていくわけですが、それに向けての専門部会ごとに整理をした意見、これらについてのまた各委員からの意見をいただくということでもあります。それでは事務局から資料の説明をお願いします。

基本構想担当課長：それでは資料１４。Ａ３版の第２回足立区基本構想審議会意見一覧をご説明しますのでご覧ください。この後の意見交換の参考用として、前回までの審議会での発言や、書面でいただいたものから課題等のご意見として捉えたものの概要を、四つの専門部会を意識して分類いたしました。なお、分類を例えば子ども専門部会とせずに、子ども分野などとしたのは、必ずしも特定の専門部会で扱ってくださいというものではなく、他にも影響しているものもありますので、分野という目安でお示しいたしました。

また、裏の２ページの下には、その他や全体として分類したものもございます。質問と捉えたものについては記載してございません。なお次回の専門部会が始まるわけですが、その際には、この一覧に本日の審議で出された意見も加えた上で、改めて資料としてお示しする予定です。

田中副会長：ザッと資料の組み立てのご紹介がございましたが、内容について細かく意見交換をしていきたいと思います。

子ども分野・くらし分野・まちづくり分野・経営改革分野・その他に分かれておりますので、分野ごとに集中的に意見交換をしていきたいと思います。

（１）子ども分野について

田中副会長：それではまず子ども分野からです。現状、それから将来の課題、ここにこうした整理がされておりまして、本日追加で出された資料１２、あるいは資料１３のような区民サロン、あるいは中高生からの意見。これなどもございますので、これも含めて意見・質問等ございましたらお願いします。

北川委員：先ほどの私の質問に戻るかもしれませんが、資料１４の子ども分野にいろいろ書いてありますが、これはもういただいたものなので、これをそのまま反映して

最終的な成果物を作るのか、あるいは例えば区外から移り住んできた子育て世代が大勢いることに着眼してどうするかということころまでは話してまとめるのかということを確認させていただきたいのですが。今は例えば例で言っていますが。どこまで細かくと言うか、具体的に。先ほど具体的な施策も踏まえてというお話もありましたが、ではどうすればということころまで話すのか、ここで出ているものがそれであって、単純に羅列するだけでいいのかということのを最初に教えていただけますでしょうか。

田中副会長：私の理解を最初に申し上げたいと思います。第１回目の審議会の時に、平成１６年１０月に策定した足立区基本構想というのがございますと説明があり、４６ページほどの小冊子になっていたかと思います。最終的にはこれが区議会できちんと審議をした上でまとめることになるかと思いますが、いずれにしてもそういう原案、たたき台をこの審議会に用意をするということかと思いますが。そうすると、描かれる、あるいは盛り込むべき内容の水準というのは、基本構想とここにあるような内容のレベルのものを書くと。従って個々の計画・施策について言えば、むしろその後で策定が予定されている足立区基本計画であるとか、あるいは福祉・子ども分野で言えば、そうした分野の個別の計画の中に盛り込まれてくることになるかと思いますが。

ただ、ここでの意見は、そうした個別の分野でもよろしいのではないかと思います。それはそれとして、そうした計画や事業に反映されればいいと。しかし、この審議会としての公式的な役割というのは審議会の答申であるわけですが、答申というのは基本構想の方向性であったり組み立ての原案であるというのが私の理解です。

基本構想担当課長：今副会長がおっしゃった通りとこちらも考えております。最終的に基本構想の新たなものを、方向性や理念等を定めていただきますが、そのためには今ご覧の資料１４のように、例えばなのですが、この分野の。これは解決していかなければいけないとか、これは十分に大丈夫なのではないかとか、そういった議論も交えながら、大きな方向へ話を進めていくと。本日までは大体こういった課題の整理というところですので、本日はそういったところで、今後の専門部会の中で進めていただければと思います。

田中副会長：ご発言がどこまで具体的なものをしていいのかということがお悩みかと理解しました。ですから、具体的なことをご発言していただいてもよろしいかと思います。ただ、それを反映するのは個別の計画であったり、あるいは次の段階で行われる足立区基本計画というのがございますので、そういうところに意見としては生かされることになるだろうと思います。基本構想というのはもうちょっと理念的で、ある意味まちづくりの方向性であるとか、課題を整理したものですので、直接はなかなかそこには盛り込めないのではないのかというのが私の理解です。

他にいかがでしょうか。

志自岐委員：実は前の基本構想の中で、いわゆる子ども分野の話がどの辺にあるのか

と思いましたが、意外に薄い感じがいたしまして、かなり枠組みも大きく変わるのでないかと思っていますところがあります。

それと今足立区がやっているのが子どもの貧困問題とか、あるいは学力の向上というのを一生懸命やっていると思うのですが、学力の向上とか高校生の中退者が問題だとなっていたと思うのですが、全く別のところから、そんなに頭が良くなくてもきちんと生きられる町だったらいいなと私は思っています。高校に行ったら合わなくて辞めた場合、そこを無理矢理中退者に対して支援するというような、とにかく高学歴を目指すというだけではない。もちろん頭が良くて、いい学校にいっぱい行ってくれるのは全然いいのですが、そうではない人にも何か救いがあるような、そういうようなまちづくりと言うか、地域づくりと言うか、そういうのがあったらいいなと思います。例えば、足立区は、かつては職人の町だったりもしたわけですから、そういうところで生きていく。足立区にきちんと根を張って、足立区の実現なりに貢献出来るような人材が出来ていけばいいのかなというのを少し思っています。

北川委員：今の志自岐委員と同意見です。ここを公募した時の作文にも書いたのですが、高学歴を目指すだけの教育だけではなく、割と小さい段階から職業教育と言いますか、大学進学という高学歴を目指す以外の進路についてもかなり低学年からどういう選択肢があるのかということについて教えておかないと、大学受験からはじかれた子は、もう何も目標がありませんという状態というのが今の日本の教育だと思います。そうではなくて、大学に行かない。中卒でも自分の目指すものがあればそれを追求していけるというようなそういう選択肢を、そういう情報が提供出来るような教育が必要ではないかと思っています。

村上委員：資料１４を拝見していて、どこまで総花的にと言うか、網羅的に意見を反映するかということがあるのですが。その中で出てきていない問題としては、先ほどおっしゃったように職業教育と言うか、中退を防止するだけではなくて、別の選択肢と言うか、方向性もあるだろうというのはおっしゃる通りだと思います。

あと学力問題に関してこの中では記述があまりないのですが、これについてはやはり教育委員会の方でもいろいろ議論をされていると思いますし、専門部会の方で教育長も入られるようですので、教育委員会の考え方等もすり合わせながら入れていく必要があると思っています。

あともう一つ、保育に関して割と保育料とか待機児童対策とか量の問題が書いてあるのですが、保育とか幼児教育の質の問題はニーズに合ったものというのは資料１４にあるのですが、もちろん待機児童は深刻なので量は大事ですが、質の問題ももし可能でしたら、その専門部会の方で何かお話が出来ればなと思っていますところ。

全体のこの場でいろいろ意見が出た中で、反対意見等あればそれはまた別ですが、今言ったような学力とか保育の質の問題というののも必要だと思っています。

田中副会長：この分野ではいかがでしょうか。いくつも重要なご指摘をいただいたか

と思います。よろしければ、次の分野に移らせていただいてよろしいでしょうか。

(2) 暮らし分野について

田中副会長：それでは暮らし分野に移ります。ここからは会長にバトンタッチいたします。

牛山会長：皆さん、申し訳ございません。公務で遅れまして失礼いたしました。それでは、暮らし分野のことについてご意見をいただきたいと思います。こちらについてご意見のある方は挙手をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

北川委員：将来の課題の3番目ですが、生活保護受給者が多い、貧困問題について書いてありますが、生活保護受給者と言っても高齢による方ですとか、あるいは就業困難ですとか、病気によるものとかいろいろあるのですが、やむを得ないと言うか、解決のしようがある程度難しいというところではなくて、例えば働きたいんだけど働き口がないから働けなくて生活保護になる方とか、あるいは介護になられるために退職して生活保護になってしまうという方々の突っ込んだ扶助なり、就労支援、あるいは介護のサポートなどについても入れた方が良くはないかと考えています。

基本構想担当課長：細かいお話と言っても、そういったことを積み上げて方向性になる可能性もありますので、今までご発言のなかった方からもぜひいただきたいと思います。

牛山会長：いかがでしょうか。これまでたくさんいただいておりますが、まだご発言のない委員の方、何かございましたらいただきたいと思います。

大塚委員：こちらの資料13で区民あだちサロンと中高生ワークショップを拝見しまして、若い世代が高齢者に関心が強いんですね。それで若い世代と高齢者との関係について、現状・課題にしてはどうかと思っています。

石阪委員：今皆さんのご意見であったり、資料を拝見すると、今までこの足立区は例えば家族もそうだし、地域コミュニティもそうだし、例えば会社・職場などがしっかりしていた時代というのは、極端に言えば行政が何もしなくてもそれぞれがある意味でそれぞれの力の中で、それぞれの範囲の中で一生懸命機能していて、むしろそこに身を任せていれば幸せに暮らすことが出来たのだと思います。これからはおそらく、今家族の危機というのが言われていますし、それから地域コミュニティもこれを拝見すると、町会・自治会の加入率も下がっていて、コミュニティも脆弱化している。更に会社組織は正社員の比率がどんどん下がって行って、事業所の数も減っているというデータが出ている。こういう中で何らかの行政の支援をしていかなければいけない

し、では行政だけにそれを任せて、我々は何もしなくていいのかということそうではなくて、新たな仕組みや絆をくらし分野の中で作っていかねばいけない。では家族に代わるもの、地域コミュニティに代わるもの、既存のいわゆる会社組織に代わるようなものを、ではどうやってみんなで作り出していこうかというのが、おそらく今後の足立区に必要なのではないかと思います。

ですので、皆さんから意見を出していただくにあたって私が一つ注目していきたいのは、今までの組織や今までの固定観念から新しい絆であったり、アイディアみたいなものをぜひ出していただいて、家族や諸々の団体に代わるもの、あるいはプラスアルファされるようなものを出していく。これを見ると、中学生がみんなで助け合うとか、あいさつが大事だとか、私が中学の時なら絶対に言わないようなことで、最近は優秀な中学生が多いなと思いました。ただ、逆に中学生の時から思いやりが大事だとか、地域交流が大事だ、団結しなければいけないと言わしめているのは、それだけ地域が危機に陥っているということでもあると思います。子どもたちが見てもそれを感じるわけです。ドライになってきたとか、あるいは今まであったものが忘れかけているのではないかとといった危機感があるのだと思います。我々もそれを察知しながら、では子どもたちが新たな絆や交流というものを作っていくためにどんなことが必要なのかを考えていく必要があると思います。そんなことを踏まえて、次の議論に行っていたらいいなと思いました。

牛山会長：今のお話にありましたように、今後のこういう状況を受けて、どんな地域づくりをしていくかということで、これまでも足立区は協働のまちづくりということで進めてこられたわけですが、それを更に発展させていく。次のステップにはどういうことが必要かということについても考慮に入れてというご指摘であったかと思います。そんなことも踏まえまして、ぜひまだご発言のない委員の方からご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

益留委員：資料１３でまだまだ元気に働ける高齢者の方がたくさんいるという意見が出ていたので、もっと暮らしやすい地域を作るためにも、まだ働ける高齢者の働く場所やシニアの観光ガイドの仕事など、もっと高齢者が活躍出来る仕事の場面が作れるといいなと思いました。

牛山会長：これから高齢化ということで、高齢者の人口がどんどん増えていく数字が出ていますが、そうは言っても私も結構年は取っておりますが、６０歳、６５歳でも皆さんお元気で地域で活躍していただける方ばかりだと思います。もちろんいろいろな方がいらっしゃいますが、そういった意味では今のご指摘、地域でいかに高齢者がお仕事や活躍をされるのかといったことをどう組み立てていけるかもあるのではないかとご指摘かと思います。ありがとうございます。

田中副会長：将来の課題の　のところですが、医療や介護等の扶助費増について検討

するということですが、これはぜひそうしていただかなければいけないと思います。つまり、人に対する投資がこれから必須のことになっていくわけで、つまり具体的検討の時にきちんと見込みを立てていただいたらよろしいかなと。今は2015年ですが、2020年、2025年、2030年という形でこのところの負担が生じてくるのか。それがおそらく区としては区民税等からの収入が歳入になってくると思いますが、そことのバランスを考えるということですね。

つまり、今までのように右肩上がりで税収が増えていくという時代ではなくて、縮小の時代ですので、このあたりをどのように認識するかが結構大事だと思います。ぜひこれは具体的データでお示ししたいと思っています。

基本構想担当課長：具体的なデータは検討させていただきますが、税収が増えれば問題はないわけですが限りはありますので、こういった扶助費を重点的に考えるのか。また他を考えていくのか。一部は縮小といったことも含めて、方向性等をお示し出来ればと考えております。

牛山会長：よろしくお願いします。他にはいかがでしょうか。

乾委員：まちづくりの部会に所属することになると思いますが、これから高齢者が増えることは分かりきったことで、そしてまた足立区内でも高層マンションなどの集合住宅が増えるということも、その傾向にあると思います。そういった場合に、ますます孤立化してコミュニティが作りにくい時代が来ると思います。このコミュニティづくりの仕掛けを何とか作っていかないと、自然にはとても発生していかないと考えています。

例えば、二十数階建ての高層マンションであれば、そのうちの2階ぐらいを公共の場所とする。みんなが集える場所にする。例えば既に始まっているかもしれませんが、みんなで入れるお風呂を作ったり、その中に保育所を作ったり、高齢者が集う場所があったり、大型マンションの開発に関しては、そういうものを付けてほしいという条件を区として出せないものかと考えております。

牛山会長：マンションの中で孤立化していく高齢者が多い中で、どこまで法的な問題とか課題がクリアして出来るかということはございますが、大変重要なご指摘だと思います。他にはいかがでしょうか。

馬場委員：くらし分野をどう将来的に足立区の区民にとっていいものにしていくか。やはり暮らし向きを良くする方法、流れを作っていかなければならないのかなと思うのですが。先ほど意見が出ましたが、将来の課題の医療・介護等の扶助費増について検討する必要があるという点。お話にありました通り、税収はもちろん上がっていかないでしょうし、限られた中で高齢化社会をどう乗り切っていくか。そのうまく乗り切れた先が暮らしが良くなっていくことになるのだと思います。細かな一つひとつ

の努力が必要になってくると思います。ここに書いてあるように現状の、町会・自治会の加入率が低下している点。やはり加入率が低下すると、地域コミュニティも下がってくるので、やはり少ない限られた税収の中でいかに我々の暮らしをよくするのかというのは、ボランティアがどんどん増えてこないと駄目ですよという啓発活動が必要になってくると思います。

また、くらし分野の。在宅医療が必要な場合であっても往診医が見つからない。多分在宅医療というのは、これから施設に頼らない医療のいい形に進んでいけば、先ほど言ったような扶助費が増えない形で、家族で介護が出来る人は介護をしていこうとか、在宅でホテルコストの掛からないような形で家で看取りをしようとか、そういう流れが出来れば、少ない税収でもやっていけるといいますので、そちらの方向性を付けるのが大切だと思いました。

それと最後に一つ、なのですが、親元に住む若者が増えているということがあります。これはマイナスに取れば、自立出来ない子どもが増えてきているとは思いますが、親を助ける意味でも一人暮らしの高齢者にならないような形に誘導するとか、細かな施策で暮らし向きを良くしていくような提案が出来るような基本構想になればいいと思いますので、その辺の工夫をお願いしたいと思います。

牛山会長：コミュニティ・自治会等の問題。それから親御さんからの自立ということも大事だけれども、お互いに家族の中で支え合うことも重要な問題であるというご指摘かと思います。

野辺委員：先ほど乾委員のお話にありましたが、高層のマンションの場合ではなく、5階建て、6階建ての小さなマンションですと、土地を売って買った方に対してそこにものを建てる時に、建設前から必ず出来上がったなら入居者は町会に入ると、そういうものを一筆取って建てさせているところがあるそうです。そうしますと、町会に入れば子どもも子ども会に入るという具合に、そうやってコミュニティが出来上がっていくのではないかと思います。

牛山会長：いろいろ課題はあると思いますが、そういった取り組みなどもあっていいのではないかと思います。

志自岐委員：足立区は結構町会とか自治会とかありますし、それはとても大事だと思うのですが、名前が入っていても実際にそこに顔を出していないとか、そういう部分もあって、加入率も落ちている。やっぱり何か原因があって、それを補完するもの。先ほどおっしゃいましたが、新たな時代のコミュニティづくりは、もちろん町会・自治会は1本柱であって、それ以外の何か、例えば地域の中で絆づくり、とにかくどんな状況でも一人暮らしの老人は引っ張り出すと元気になれる。健康という面からも重要だと話もありました。こちらの基本構想の中では、もう一つ別の形のコミュニティづくりについて、いろいろな多角的な形を模索していくのもいいかなと思いました。

牛山会長：自治会などの従来からの地域で頑張っていたというコミュニティに加えて、更に何か新しい仕組みがあったらどうかというご提案ですね。ありがとうございます。

（３）まちづくり分野について

牛山会長：次のまちづくりの分野の話題に入りたいと思います。まちづくりの関連についてお考えを伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

小久保委員：本来ならば前回お話ししなければならなかった内容ですが、二つあります。一つ目は荒川堤北に大環状の交通網を整備してほしいということです。２番目が逃げなくてもよい安全なまちづくりです。今日配られた資料の１４にあります。１番から５番までが私がこれから言うことのイメージに入るのだと思います。

身体障がい者・高齢者、あるいは子女など、災害弱者は災害時の避難は不可能に近いと思います。それで、現在の都市計画だとか、総合防災訓練だとかいろいろありますが、こういうことを推し進めてもらう上で、災害弱者を守ることを優先事業に行ってほしいと思います。

ハード面で申し上げますと、各街区の道路、狭隘道路の解消というものもこの中に載っていますが、それから建築物の整備、耐火・不燃化の整備促進、それからライフラインはかなり古いものがありますので、電気・ガス・水道、こういった古いものは耐震性のあるものにどんどん変えていってほしいと思います。街区・建物を災害に強いまちづくりにすれば、災害時に避難等しなくてもよいまちになるのではないかと。これがハード面での考えです。

それからソフト面で考えますと、平常時の生活で災害に対応出来る意思、これがとても大事だと思います。災害が来たらどうしようではなくて、災害が来たら、これを持って逃げるといったものです。普段が大事なのであって、非常時に対処することが出来るのは、平常時から身に付けておくということです。まず地震が起きれば生命を確保しなければならない。これは当たり前のことなのですが。それから２番目に、出火防止とか初期消火、これは火災を起こさなければ逃げなくてもいいわけです。関東大震災でほとんどの人が焼死したというのは、失火による事故が多かったわけです。ですから、燃えなければ一番問題ない。それから３番目には、平素から区民の防災力アップを目指した自助努力、こういうものが大切だだと思います。それらを行政が指導するというので、こういうことを常日頃行われていれば、足立区は安全で住みよい町になるのではないかと。逃げなくてもよい安全なまちづくりということで、これが一つでございます。

次に、荒川の堤北に大環状交通網を整備する。これはぜひお願いしたいのですが。現在私の家のそばの都道の４６７号でしたか、オリンピックまでに広げるという話を聞いています。考え方が３０年後までも視野に入れてということをおっしゃっ

ています。それを考えますと、出来上がった道路を利用すれば今ある交通網というものは、南北はたくさんあります。西から言うと鳩ヶ谷街道だとか、舎人ライナーが来ています。それから小竹橋通りとか。それから東武線も南北に走っています。それから4号国道だとか。また、つくばエクスプレスも走っています。その先に8号線を誘致しているということもあります。とにかく南北に走る交通網は非常に多いので、大環状、足立区の堤北をイメージして、グルッと外回りをイメージしていただければ分かるかと思います。これが出来ることによって、交通のアクセスというのはものすごく能率が上がるわけです。ただ、放射で行って帰ってくるだけです。それが外周で結ばれていれば、どこかで乗り換えることが出来るわけです。これはぜひ近い将来やってほしいというのが私の意見です。

牛山会長：二つ重要なご意見をいただいたと思います。他にいかがでしょうか。

田中副会長：2点あります。一つは についてです。エリアデザインは優先順位をはっきりさせる。それからこれは将来課題ですが、インフラ整備の充実にあたってどのような問題点が出てくるのか。基本的にはインフラを整備する、基盤施設を整備すると、都市の利便性が向上し、都市環境が向上するということで、これはプラスなのです。しかしその副作用もありまして、都市基盤施設を整備すれば、交通機関の整備もそうですが、必ず初期投資に加えて後年に負担といういわばお金が掛かるので、それをどうやってまかなうのかという問題があります。

ですから、今までのように、つまり右肩上がりの時代であれば、ある程度投資をしてもそれに人口が増えて、そこを使う人が増えて回収が出来たわけです。それがあある基盤整備をすると、結果として後の世代に非常に負担が掛かって、いわば支出過剰な状態になりますので、この点は注意した方がいいと思います。だからやっぱり優先順位、ある種の選択を考えていかなければいけないのではないかと思います。

足立区は23区の中で4番目に広い区で、今まで開発が遅れた分野もあるので、極めて潜在的に開発ポテンシャルが高い区だと思います。ですから、いろいろなプロジェクトが持ち掛けられていると思いますが、そのところをよく優先順位を考えた方がいいのではないかと思います。ということで、きちんと整備の順番、あるいは一番効率性のいい順番というものを考えてはどうかと思います。

二つ目はそれに関連して、先ほどもマンションのところに大浴場を義務付けてはどうかとかそういった話もありましたが、それは同感でして、開発の際に必ず地元枠とか、地元関連をやってもらいたいわけです。午前中、西新井の大規模開発の見学に行ってきましたが、例えばそこに大手資本、イトーヨーカ堂であったり、全国規模の資本が出ています。それがまちづくりの核になっていて、それはそれとして財力があり、コアになるとは思います。同時に、そこにやはり地元の商業者とか、地元の小売業者が入っていけるようなそういうことをしていかないと、地元還元されないのです。おこぼれで開発地区の周辺の商店街に来るかもしれませんが、コアからある種波及的に出てくることだと思います。ですから、コアの開発のところにも地元枠のようなも

のをちゃんと位置付けて、地元の将来を考えた開発を事業者に求めていく。そうした形で地元へ還元するという施策をこれからやっていく必要があると思います。

牛山会長：まちづくりの方向性の中での地元への還元。そして政策の優先順位をしっかりと考えていかなければいけないというご意見だったと思います。他にいかがでしょうか。

近藤委員：今、優先順位というお話が出ましたが、都市計画で道路計画などいろいろありますが、昔から、何十年も前から計画があって規制が掛かっているところがあります。ところが、今後もおそらくないだろうというようなところも規制がずっとそのままになっています。必要なところはどんどん進めなければいけないのですが、もうないだろうというようなところはぜひ規制を外して見直しをしていただきたいという部分があると思います。

長谷川委員：先ほどから委員から防災に強いまちづくりというお話がありましたが、前回の基本構想は平成１６年ということもあって、３．１１から見ると相当前の基本構想だったこともあって、防災については３５ページに数行書いてある程度で記述がない状況です。私としては、やはり３．１１で東北の町がそれぞれ被災して、現在いろいろな将来の基本構想を作っているというところに、非常に防災に強いまちづくりということでのベストプラクティスがあるのではないかと思います。例えば、先日も私、東北に行った時に、ある町で福祉避難所というものを一般の避難所と別に作ることによって、非常に効率良く障がいの方とか、透析・人工呼吸、自宅療養者を集めて医療機器等もそこに集めるというやり方を考えておられる町がありました。いろいろなやり方があると思いますので、ぜひ参考にいただければと思います。

乾委員：大規模店舗の中に区の商店をというお話がありましたが、西新井のイトーヨーカ堂では、地元のお肉屋さんのお肉を期間限定ですが売り出すということをしています。足立区と友好都市である魚沼市の物産もそこに入っています。少しずつ大型店舗にも足立区に入っているように感じています。

（４）経営改革分野について

牛山会長：続いて経営改革分野。行政や財政の運営との関連についてご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

石橋委員：資料１４の８番に基本構想・基本計画策定後の進捗状況をしっかり検証していく必要があるとあります。私はこれが非常に重要なことだと思います。これまで３回この会をやっていますが、非常に下から積み上げ方式で、こんなことはどうかという話がいっぱいあるわけですが、既に、第１次の基本構想というのが平成１６年に

作られているわけで、それがどうだったのかという点。出来ているものに対してどこが良くてどこが悪いのか、あるいは他の自治体に比べてどうなのかとか、そういう観点からの評価をやるべきだと思います。部会ごとにやるのか、全体でやるかは別にして、あるいは各委員レベルでやる必要もあると思います。

一つお聞きしたいのは、基本構想というのが抽象的なわけですが、ここに出てきた重点施策的な話を飛び越えた、それをひっくるめた上のレベルの話なので、これ地方自治法でしょうか、構想を定めなければいけないということがあったので、各自治体は基本構想を定めたわけですが、それが廃止になって必ずしも基本構想は定めなくてもいいわけです。23区の中でも基本構想をやめた区もあるように聞いています。それを足立区としてなお第2次の基本構想をやろうという意思を固めた背景、現状の基本構想が、3.11等があって足りないことがあるとかそういうことはあるとは思いますが、その辺どういういきさつで、第2次の構想を掲げようとしているのか、ちょっとそれをお聞きしたいと思います。

基本構想担当課長：最初に進捗といったことですが、検討素材で現在の基本構想に基づく施策を示したことで、それが具体的になっているのか、まだ課題が残っているのか、その辺が現在の基本構想での評価、進捗の管理に対する評価ということになるかと思います。ここでまだ課題が残っていれば、それを次回、今ご審議いただいている基本構想に引き継いでいくのも一つということでお示ししております。議論そのものはまだ終わったわけではございません。今後そういったことも踏まえてご議論いただいてよろしいかと思います。

それから、基本構想策定については、おっしゃる通り地方自治法が改正になりました、自治体の義務ではなくなりました。そういった中でもいろいろグランドデザインとか、そういった名目で各自治体は計画をやはり立てて、今後の施策を進めております。そういった中では、足立区は協働で将来像を掲げていきたいと思いますということで、自治基本条例というものを定めております。それに基づいてこれまでと同様に基本構想を足立区としては掲げていくということで継続させていただいております。協働で足立区の方角性を導き出していきたいと思いますという、そういった背景があるというのが事実でございます。

牛山会長：中長期ビジョンの重要性というような観点からの議論もありますが、足立区では条例で定められているので、これを基本としてこの構想を立てていくということです。他にいかがでしょうか。

田中副会長：2点ございます。一つは 〃の将来課題の部分で、区の財源がなければ、あるいは財政が厳しい中でという話が載っています。将来、区の財源が非常に厳しくなるだろうと思います。そこでつまり歳入の見込みと、今のままで行った場合の歳入の見込みというのをきちんと出してほしいと思います。これはこれからの審議の中で。その上で、将来のシナリオと言いますか、2030年とか、あるいは向こう30年で

2040年とかもあるかもしれませんが、どのような区づくりをするのか。いろいろな基盤施設を、あるいは扶助費を増やした場合にどうなるのか。あるいは、中程度で行った場合にどうなのか。こういったことをきちんと3ケースとか2ケースとか作ってみればいいと思います。そういうことをすることで、つまり区の将来的な見通しがきちんと明示されてくることになると思います。

ちょうどいい例が新国立競技場の話で、あれはいろいろなスポーツ団体の要望を取り入れる、屋根は開閉式にする、観客席は8万とか、冷暖房完備とか、こういうことを入れたら三千いくらになったというわけです。やはりどこかを切らないと1,600億にならないわけです。結局国として、オリンピック委員会でもどこまで財政負担が出来るかという話があると思うのですが、区としても区の将来を作る時にどのくらいお金が掛かるのか、そういったものをちゃんと考えておかなければいけなくて、いろいろな要望を盛り込めばそれは膨らみますよ、ある程度抑えればこのくらいになりますと、こういったことをきちんと出した上で、そこを区民に材料として提示をして意見を伺うことがこの審議会の役割であると思います。

ワークショップとかいろいろな区民、中学生・高校生に将来の夢を語っていただくことはとてもいいことですが、実はそこに本当にリアリティがあるかということも同時に考えなければいけないと思います。つまり、財源や施設、あるいはそこに働く担い手がいるかどうかとも考えなければいけないので、そういったところできちんとした政策を考えるというのはそういうことだろうと思います。

二つ目は、先ほどもキーワードが出ましたが、自助・共助・公助のバランスを考えていかなければいけないと思います。やはり区民自らが担うべきこと。あるいはコミュニティや地域で活用していくこと。そして、行政あるいは政府がきちんとした対策としてセーフティネットを作ること。そういった自助・共助・公助という中で、ここまでは行政としてきちんと負担しますと。そこから先は例えば就労支援のような支援をしますとか、あるいは機会を作るとかそういうことはやるけれどもお願いしますという、そういうどこできちんとしたバランスを考えなければいけないと思います。それは個々の課題ごとにありますので、その中で整理していく必要があると思います。

牛山会長：経営改革はなかなか専門的で難しい部分があると思いますが、田中先生いかがでしょうか。

田中隆一委員：経営改革のところでなかなかイメージが持ちにくいというところもあると思います。こちらの現状の方で特に共感したところが1番です。大学慣れしていない方が多いと書いてあるのですが、本当にもっと活用するためには、コンソーシアムというのを考えていくというのはとてもいいアイデアだと思いました。なぜそう思ったかという、例えば将来の課題の6番のところで、担税能力のある人材の流入、定住の促進が重要だとか指摘をいただいているわけですが、そことも絡んで、大学で学生がやってくるのは非常に一つのいい機会になっているわけですので、そこで足立区内で学んだ方々がその後どのように出ていくのか。それとも足立区にとどまるのか

といったところも見ていくことが出来ると非常に良くなっていくのではないかと思います。

もう一つ、これが非常に重要だと思った理由として、資料１３でさまざまな課題等というのが将来像のところに書いていただいているわけですが、経営マークが付いているところで一番多いのが、やっぱりイメージとかブランドといったところを出していくということで、足立区民に対しては意識がどんどん良くなってきていて、区に住んでいる方々のイメージはどんどん上がってきているわけですが、区の外に対してどんどん情報を発信して、区の外の人々というのはどんなイメージを抱いているのかということも併せて見ていくことが大切だと思いました。

北川委員：私も経営改革の委員に今度なるようですが、将来の課題３はこれ、私が以前に発言したことだと思うのですが、区の保有施設の大規模改修ということで、小中学校の耐震工事ですとかいろいろ入ってくると思います。統合を進めて学校施設を減少させても、今度は民間の大規模開発があった時に、また学校を増やさなくてはいけないとか、そういう問題が入ってくると思います。実際に民間開発に区としてどれだけ関与出来るのか、ルールの知識が私にはないのですが、もし可能であればある程度中に入って、区の施策に影響を及ぼすようなものであれば、可能な範囲で介入することも必要なのではないかと思います。

牛山会長：また今後もいろいろと議論が続いていくと思いますので、この程度にさせていただきます。

４．専門部会への調査付託

牛山会長：本日は中学生の代表の生徒さんがもう間もなくいらっしゃるということですが、次第４については、要約的にかいつまんで事務局より説明をお願いします。

基本構想担当課長：Ａ４の資料１５をご覧ください。専門部会は４部会とも各３回を予定しております。１回目は現状と将来の課題の整理です。本日議論していただいた内容の継続となりますが、各専門部会で深掘りして整理していただきます。

第２回目は、将来の課題を踏まえ、専門部会ごとに将来像と基本理念を考案していただきます。将来像とは目指すべき将来の姿を示す都市像のことで、現在の基本構想で例を挙げますと、１、魅力と個性のある美しい生活都市。２、自立し支えあい安心して暮らせる安全都市。３、人間力と文化力を育む活力ある文化都市、となっております。参考までにその一つ前、平成４年６月の基本構想では、ときめき・ゆとり・水辺のまち足立となっております。

次に基本理念とは、将来の足立区を築く根本となり、関わるすべての人が共有すべき普遍的な考え方です。現在の基本構想では、協働で築く力強い足立区の実現

です。一つ前の基本構想では、人間性を尊重する、地域からの発想を生かす、共に支える社会を育む、でした。

専門部会の第3回目では、将来像と基本理念をまとめ上げていただきたいと考えております。以上、専門部会で考案した将来像と基本理念を、全体の第4回審議会で報告していただきまして、全体として足立区基本構想ではどのような将来像とするのか。こういった基本理念にするのかを議論していただきたいと考えております。

最後に、この資料15の一番下に専門部会を終えた後の全体会の日程についてあらかじめ決まりましたのでご案内させていただきました。ただいま申し上げました第4回審議会は12月2日の予定です。正式な出席依頼の文書は改めて通知させていただきますが、ご予約のほどよろしくお願いいたします。

牛山会長：専門部会の方では今後課題の整理。将来像と基本理念の考案といった点をお願いすることになっております。特に将来像と基本理念の考案につきまして、各専門部会の立場からご議論をいただき、そしてまとめていただきたいという今後の進め方についてのご提案を受けました。何かこれらにつきまして、委員の皆様からご質問はございますでしょうか。

須藤委員：今まで意見一覧を見せていただいたのですが、現状の中でも今現在並行して、他に足立区の中で防災対策だとか、あとは地域包括ケア全体会とか、そういったところで進んでいる問題もあるのです。ですから、現状これがすべてこれからの問題ではないと思います。今、現状の足立区でやられているところをまず我々が認識しないと、それを題材にして、では何が足りないのかというのを考えていかなければいけないと思っています。

ですから、今後分科会に分かれてまいりますので、ぜひその時に、くらし分野の分科会であれば、どんなプロジェクトをやっているのかとか、地域包括ケア会議では今名簿を作っている現状なのですが、そういうのをまずその分科会の中で現状を踏まえていただいて、それに基づいて足りない分を考えていかなければならないと感じました。

牛山会長：それではこういった進め方でやっていきたいと思いますので、今後専門部会ではそれぞれの専門部会ごとの課題の整理、それから将来像と基本理念の考案、こういったことについて、今ご意見をいただきましたが、現状をしっかりと踏まえてご議論いただくということで、二つを付託させていただきたいと思います。

なお、ぜひ幅広いご意見を出していただき、ご議論いただきたいと思うのですが、多くの区民のご意見を個々に集めていきたいということで、例えば各委員のご近所の方とか、あるいは各関係団体の委員の方が所属しているところの構成員の方、こういった方々にぜひ将来の足立区についてどうしていきたいかということをしらべていただいて、それぞれの専門部会の中で述べていただくなど、ぜひご尽力賜ればと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日は以上で議題が終了いたしました。これで第3回の足立区基本構想審議会を終了いたします。次回からいよいよ専門部会ということでご議論いただきますのでよろしくお願いいたします。

5．事務連絡

基本構想担当課長：次回の開催についてご連絡がございます。日程や場所が専門部会ごとに分かれていますが、本日配付した日程表に基づきましてご出席のほどよろしくお願いいたします。なお、次回に限らず、もしもご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメールで事前連絡をいただければ幸いです。

6．中学生代表による「私たちの考える足立区の将来像」提出

基本構想担当課長：ここで中学生の代表生徒さんから、私たちの考える足立区の将来像の提出についてご説明します。まず牛山会長に向かって生徒お二人から区の将来像を語ってもらい、将来像の手渡しを行います。終わりましたら他の委員の方も含めまして、恐れ入りますが集合写真の準備のために移動していただきます。なお、時間の関係で座席をお立ちいただく位置については係の者が誘導いたします。そして写真撮影となります。

最後に、生徒さんは席を離れていただき、委員の皆様だけでも写真撮影を行いたいと思います。ではお越しにいただいている中学校の生徒さんをお願いしたいと思います。栗島中学校2年生の女子の方と、第四中学校2年生の男子の方です。よろしくお願いいたします。

男子：これは僕たち区民が考えた将来像です。

女子：私たちの思いや願いがたくさん込められています。

男子：僕はコミュニケーションが多く住みやすい町になると良いと考えました。

女子：私はそれぞれの年代に合った居場所があり、安心・安全、信頼出来る町になればいいと考えました。

2人：すてきな足立区の未来をかなえてください。

（写真撮影）

基本構想担当課長：本日は誠にありがとうございました。これで終了となりますが、お忘れ物のございませんようよろしくお願いします。また、お車でお越しの方は、出口付近の係の者にお声掛けをお願いしたいと思います。

午後 1 6 時 5 5 分 閉会